

長崎まちづくりのグランドデザイン2050（素案）

～「みらいの長崎」をみんなでつくろう！～

-Index-

Chapter 1 長崎まちづくりのグランドデザイン2050について

Chapter 2 みらいの長崎について

Chapter 3 みらいの長崎に向けたまちづくり

Chapter 4 おわりに

Chapter 1

長崎まちづくりのグランドデザイン 2050 について

Ch.1

長崎まちづくりのグランドデザイン
2050について

Ch.2

みらいの長崎について

Ch.3

みらいの長崎に向けたまちづくり

Ch.4

おわりに

1 私たちが目指す「みらいの長崎」

ここで暮らす人々が生き生きと暮らし、多くの来訪者を引きつけ、交流が生まれる
活気と魅力にあふれるまち長崎——。

長崎市は、独特な地形と港を通じた国際交流交易の積み重ねにより、国際色豊かな多様な都市文化を形成するとともに、被爆の惨禍から復興し、平和都市として国際的な役割も果たしてきました。そして、周辺町との合併を重ね、豊かな個性を持つ都市として発展を遂げてきました。

これから先もこうした長崎の個性を活かしながら、長崎のまちが活気と魅力にあふれ、長崎市にしかできない役割を果たしていきたいと考えています。

そのためには、将来にわたって持続可能な都市構造を実現する取組みを通じ、若い人に選ばれ、子どもたちが健やかに成長でき、すべての人たちが自分らしい暮らしを選択できる豊かな暮らしを実現し、また、新たな交流を生み出しながら経済を支える「みらいの長崎」に向けたまちづくりを進めていく必要があります。

そして、その実現には、様々な関係者と行政が一体となり、それぞれの強みや主体性を活かしながら、「オール長崎」でまちづくりに取り組むことが不可欠であると考えています。

この「長崎まちづくりのランドデザイン2050」は、みらいの長崎に向けて「オール長崎」でまちづくりを進めていくための一つのきっかけになればという思いから作成しました。

2 「長崎まちづくりのグランドデザイン2050」とは

Q. どうして、「まちづくりのグランドデザイン」が必要？

人口減少という重要な局面

長崎市では、人口減少のスピードを緩めるため、経済再生や少子化対策などの分野で取組みの重点化を図っています。

グランドデザインとは、まちづくりの分野から**持続可能な都市構造を実現する取組みを通し、こうした動きを後押しする**ものです。

Q. これまでの計画となにが違う？

多様な主体との連携・協働によるまちづくりを目指すもの

社会情勢が急速に変化し、都市課題が多様化・複雑化する中、これからのまちづくりは、様々な関係者との連携・協働による取組みを進めていくことが重要です。

そのためには、市民、事業者、行政などの関係者の強みや主体性を重視したまちづくりが必要です。

そこで、グランドデザインは、まちづくりの方向性を共有し、様々な関係者と行政が一体となり、「オール長崎」でまちづくりを進めていくことを目指しています。

Q. なぜ、2050年を目標とするの？

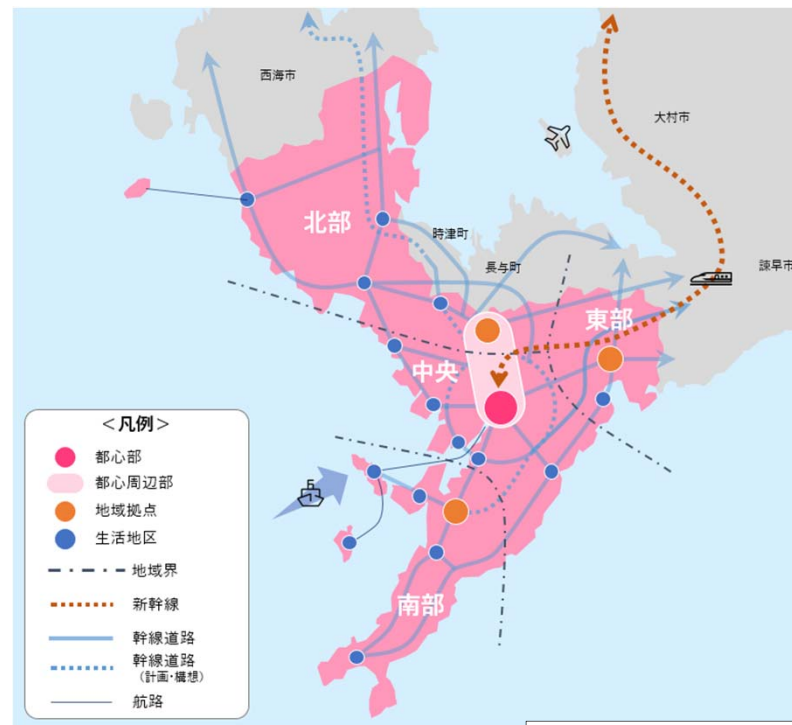
まちづくりの概成時期を考慮し、2050年に設定

長崎市の都心部・臨海部の構想である「ナガサキ・アーバン・ルネッサンス構想」が、1986年策定から概成するまでにおよそ30年から40年の期間を要していることなどを参考に設定しています。

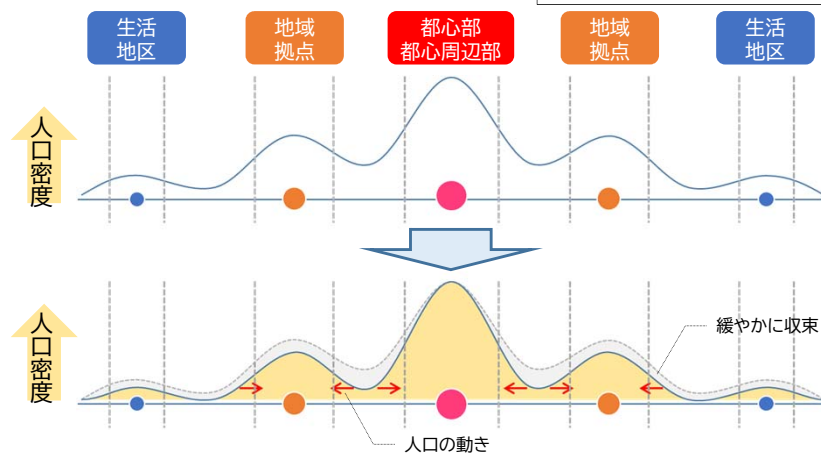
なお、人口減少対策は喫緊の課題であることから、スピード感を持って短期的な施策と中長期的な取組みを着実に推進します。

集約連携型の将来都市構造「ネットワーク型コンパクトシティ長崎」

将来都市構造図



居住の収束イメージ（断面イメージ）※



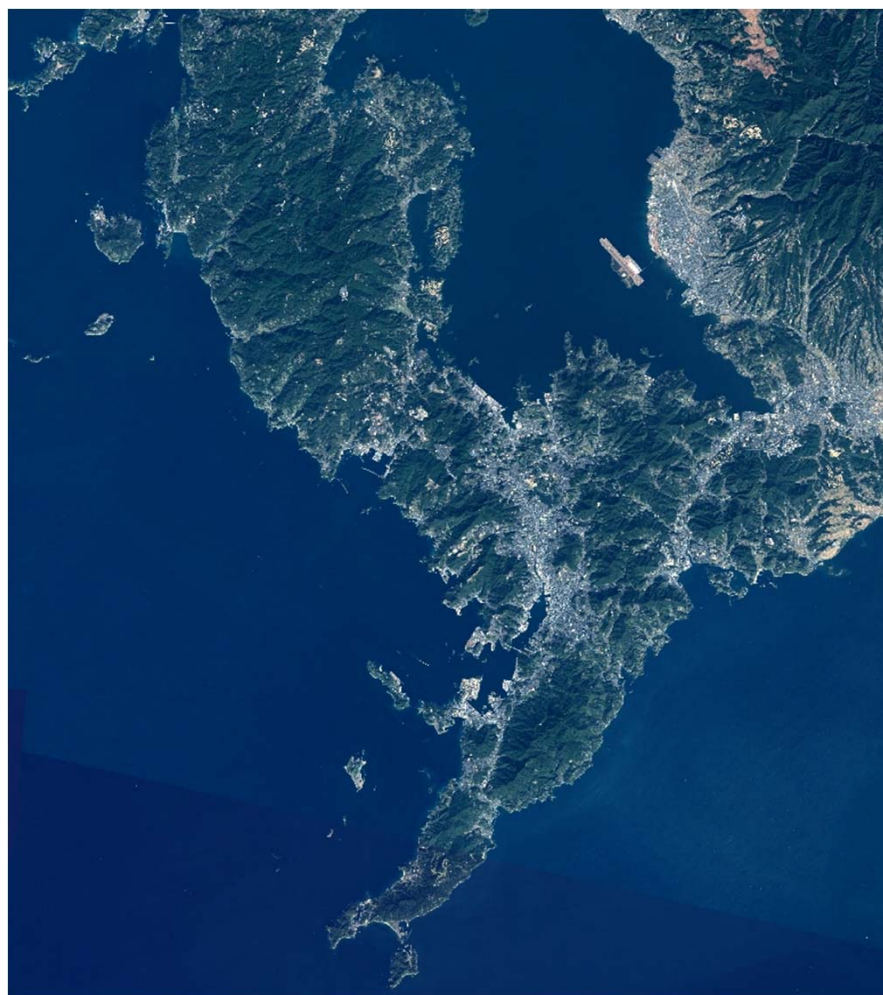
Ch.1	長崎まちづくりのランドデザイン 2050について
Ch.2	みらいの長崎について
Ch.3	みらいの長崎に向けたまちづくり
Ch.4	おわりに

Chapter 2

みらいの長崎について

1 長崎市ってどんなまち？

港を通じて国内外の様々な文化を取り入れ発展した、
海・山に囲まれた坂のまち



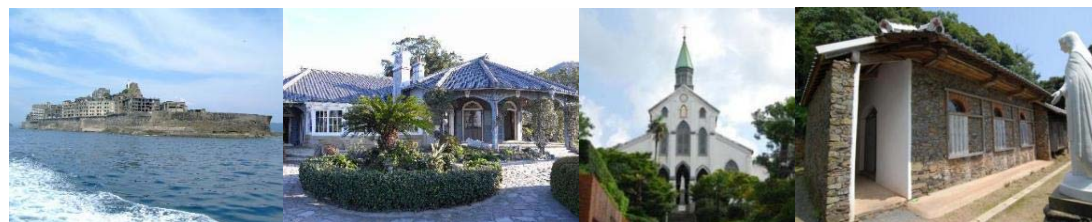
出典：国土地理院「地理院地図」

長崎市は、九州西端の長崎県南部に位置し、開港以来、港を拠点とした国際交流により発展してきました。周辺町との合併を経て成長し、海と山に囲まれた自然豊かなまちです。

平坦地が少ないため、斜面地に住宅が建ち並ぶ独特の景観を形成しています。

県都として都市機能が集積しているほか、豊富な歴史文化遺産と異国情緒あふれる街並みを有しています。核兵器廃絶と世界恒久平和の実現を発信する平和都市であり、国際交流の拠点ともなっています。

歴史



文化



自然



2 長崎市のまちの可能性

歴史に培われた多くの個性をもつ、自然豊かな天然のコンパクトシティである長崎市

豊富な観光資源、国内外から多くの人々が訪れる

都心部

北部



平和祈念像



長崎スタジアムシティ



出津教会堂



大野教会堂



グラバー園



長崎くんち



恐竜博物館



端島（軍艦島）



世界新三大夜景



ランタンフェスティバル



ペンギン水族館



滝の観音

南部

東部

暮らし方・過ごし方にバリエーションがある

都心部

斜面市街地

地域拠点・生活地区



浜町アーケード商店街



鍋冠山公園からの眺め



端島と夕陽



出典：長崎市公式観光サイト
シュノーケリング



長崎駅でのイベントの様子



南山手の坂



琴海戸根の桜並木



大中尾棚田

まち全体がコンパクトで、
公共交通機関が発達している

【公共交通徒歩圏人口カバー率】

区 分		カバー率(%)
全国平均		41
地方都市圏	政令市	74
	概ね50万人	62
	概ね30万人	48
長崎市		80

出典：長崎市「立地適正化計画」

長崎市のまちは、

国外含め多様な人々と
交流・活動できる！

多様な暮らし・過ごし方を
選択できる！

様々な場所で生活サービスを
享受しやすい！

といった
可能性がある！

長崎市がもつ強みや可能性を最大限活かした取り組みをしていく！

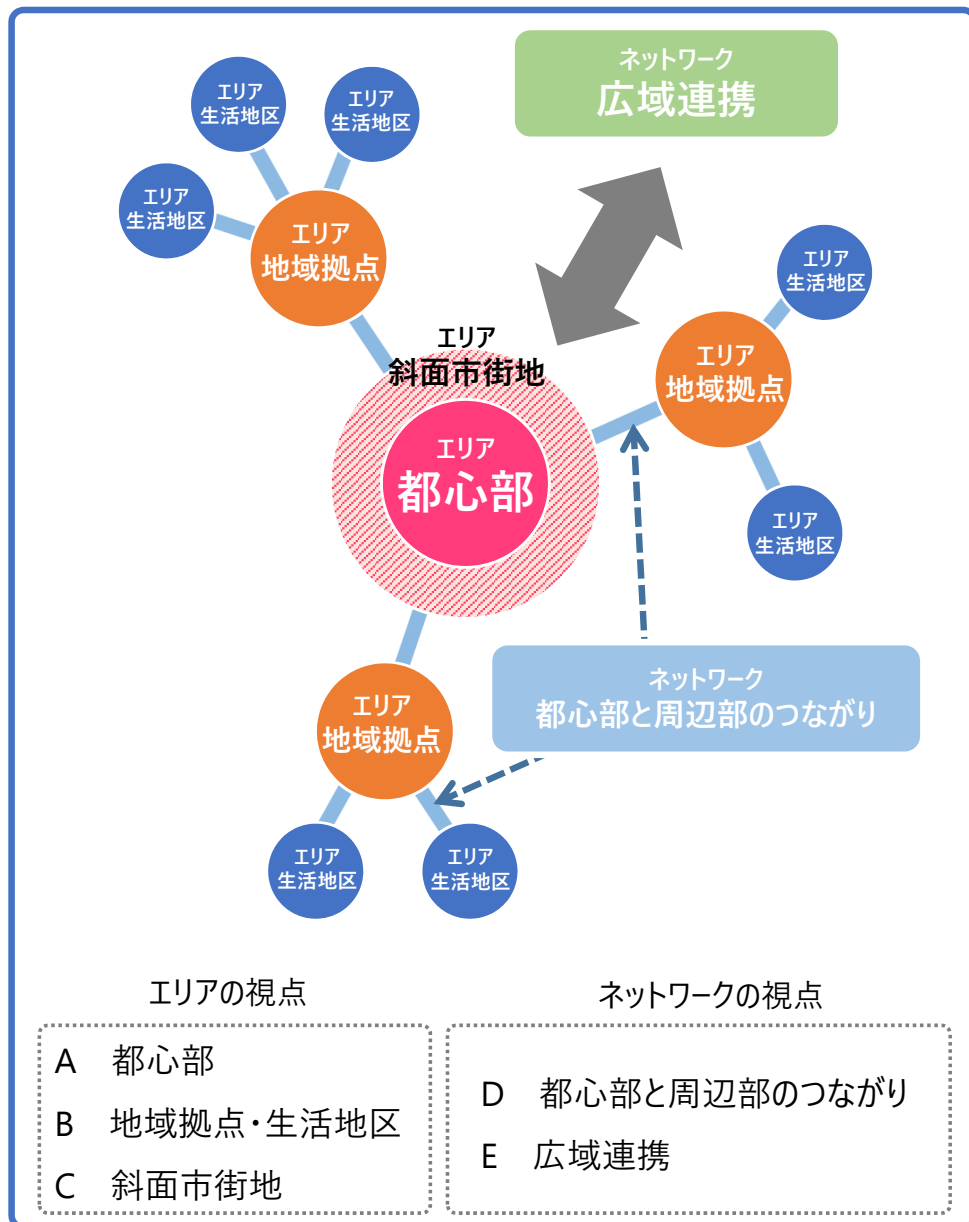
多様な魅力が多くの人・企業をひきつけ、長崎独自の暮らし・過ごし方を選択できる、
だれもが安全・安心に暮らせる長崎づくり

次のページから、将来都市構造をベースに設定した「エリア」と「ネットワーク」の視点から、みらいの長崎に向けたまちづくりの考え方を示します。

3 みらいの長崎に向けて

みらいの長崎に向けた、エリアとネットワークの視点ごとのまちづくりの考え方

将来都市構造を踏まえ、5つのテーマ（エリア・ネットワークの視点）を設定



多様な魅力が多くの人・企業をひきつけ、
長崎独自の暮らし・過ごし方を選択できる、
だれもが安全・安心に暮らせる長崎づくり

エリアの視点

A
都心部

人、企業、投資を呼び込む
求心力の核となるエリアづくり

B
地域拠点・
生活地区

豊かな自然などの魅力を感じ、
地域ならではの暮らし方や過ごし方が
できるエリアづくり

C
斜面市街地

眺望の良さや静かな環境などの魅力を感じ、斜面地ならではの暮らし方や過ごし方ができるエリアづくり

ネットワークの視点

D
都心部と周辺部
のつながり

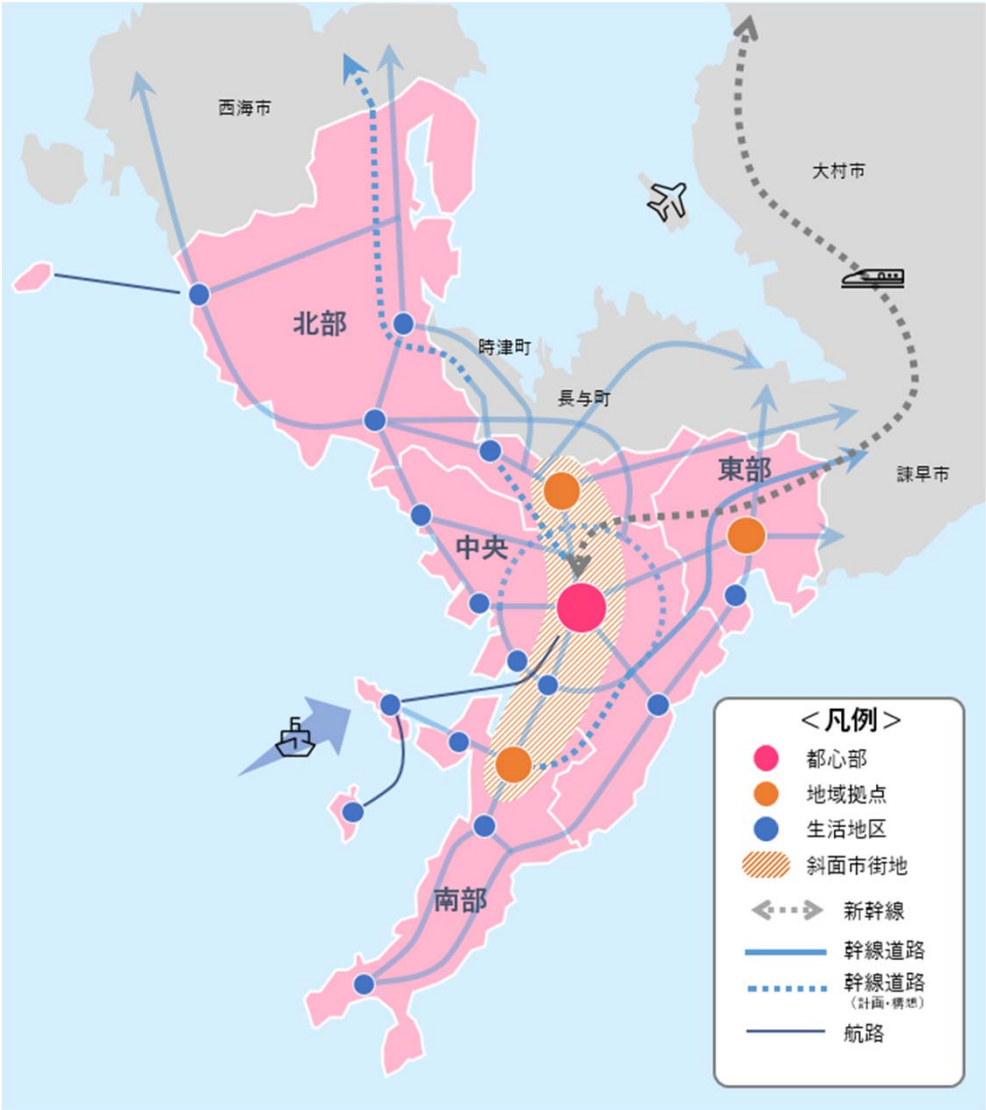
だれもが円滑に移動でき、
どこに住んでも十分な生活サービスを受けられるネットワークづくり

E
広域連携

広域で連携しながら、観光客や働く人、
住む人を呼び込むネットワークづくり

Chapter 3 みらいの長崎に向けたまちづくり

- A 都心部……………P9
- B 地域拠点・生活地区……………P12
 - 中央地域 …… P14
 - 北部地域 …… P15
 - 東部地域 …… P16
 - 南部地域 …… P17
- C 斜面市街地……………P18
- D 都心部と周辺部のつながり……………P20
- E 広域連携……………P21
- テーマ共通……………P22



【ポテンシャル】

交流拡大

- ・長崎駅周辺再整備
- ・長崎スタジアムシティ開業
- ・松が枝国際観光船埠頭2バース化

【現状・問題点】

交流や多様な活動を生み出す空間が不足

各エリアを結ぶ魅力的な回遊動線が不足

まちなかは空き店舗や駐車場が増加するなど求心力が低下

方針Ⅰ 交流や多様な活動を生み出そう

①居場所づくりや交流が生まれる空間の創出

市民や来訪者が心地よく過ごせる場所や、交流が生まれる空間の創出。

— 取組イメージ —

【憩いの場となる道路空間】



出典：国土交通省「居心地が良く歩きたくなる
ランドレベルデザイン」

【官民連携による公園活用】



出典：富山市「PPPプラットフォームの取り組みと官民対話」

②公共空間や低未利用地などの柔軟な活用

公共空間やオープンスペース、低未利用地などを、多様化するニーズなどを踏まえて柔軟に活用。

— 取組イメージ —

【都市公園を柔軟に活用】



出典：横浜市「公募型行為許可制度」

【駐車場を活用した交流の創出】



出典：富山市「富山市都市再生整備事業の概要」

— 各主体の役割や取組みのポイント —

※方針や取組みの方向性に関する各主体の役割や取組みのポイントなどを、次回検討委員会までに記載予定です。

方針Ⅱ 人中心の楽しい都市空間を創出しよう

①人に優しく緑を感じる空間の創出

道路空間再編や歩きやすい歩道整備など、人中心の安全・安心・快適な道路空間の創出。

— 取組みイメージ —

【歩いて楽しい道路空間の創出】



出典：国土交通省「多様なニーズに応える道路の事例集」

②空間の柔軟な活用

多様な用途や使い方に対応できる道路空間とし、地域の賑わいを創出。

— 取組みイメージ —

【歩行空間の多様な活用】



出典：国土交通省資料

③沿道の魅力向上

建物の1階をまちに開かれた空間とするなど、沿道の魅力の向上。

— 取組みイメージ —

【デザインガイドラインに基づくまちなみ形成】



出典：大阪市「御堂筋デザインガイドライン」

④移動の支援

まちの賑わいを感じながら移動できる手段の導入。

— 取組みイメージ —

【次世代モビリティの活用】



出典：国土交通省「次世代モビリティネットワークの検討」

— 各主体の役割や取組みのポイント —

※ 方針や取組みの方向性に関する各主体の役割や取組みのポイントなどを、次回検討委員会までに記載予定です。

方針Ⅲ エリアの価値創造に取り組もう

①エリアの価値を維持・向上させる体制の構築

様々な主体が連携し、良好な環境の保全とエリア価値の維持・向上を目指す体制の構築。

— 取組みイメージ —

【公民学など様々な主体が連携した事業の推進】



出典：国土交通省「官民連携まちづくりポータルサイト」

②取組みを支える場の確保

公共施設や歴史的建造物などを活用して、価値創造の取組みを支える場を確保。

— 取組みイメージ —

【歴史的建造物を活用した創造的活動の発信】



出典：横浜市HP

— 各主体の役割や取組みのポイント —

※ 方針や取組みの方向性に関する各主体の役割や取組みのポイントなどを、次回検討委員会までに記載予定です。

【エリアの価値創造に取り組む他都市事例】

「大手町・丸の内・有楽町地区まちづくり」

・ オフィスに特化した平日・日中のまちから、人々が中心の賑わい溢れるまちへの再構築

公共空間のリノベーション 仲通りの変遷

1970年頃の仲通り 「月曜から金曜までの街」



景観整備後の仲通り（歩道拡幅・街路樹・ストリートファニチャー）



出典：（一社）大手町・丸の内・有楽町地区まちづくり協議会
「大手町・丸の内・有楽町地区におけるエリアマネジメント型スマートシティの取組について」

取組み展開イメージ

共通

様々な移動手段の シームレス化

【様々な交通モードの接続・乗り換え拠点】



出典：国土交通省
「2040年、道路の景色が変わる」

方針Ⅱ－①

水と緑のネットワーク を形成

【親水公園の整備】



出典：江戸川区
「江戸川区総合レクリエーション公園等におけるリニューアル事業」

方針Ⅱ－①～④

主要な回遊動線を ウォーカブルな空間 に整備

【居心地が良く歩きたくなるまちなかづくり】



出典：国土交通省
「街路空間の再構築・利活用に向けた取組」

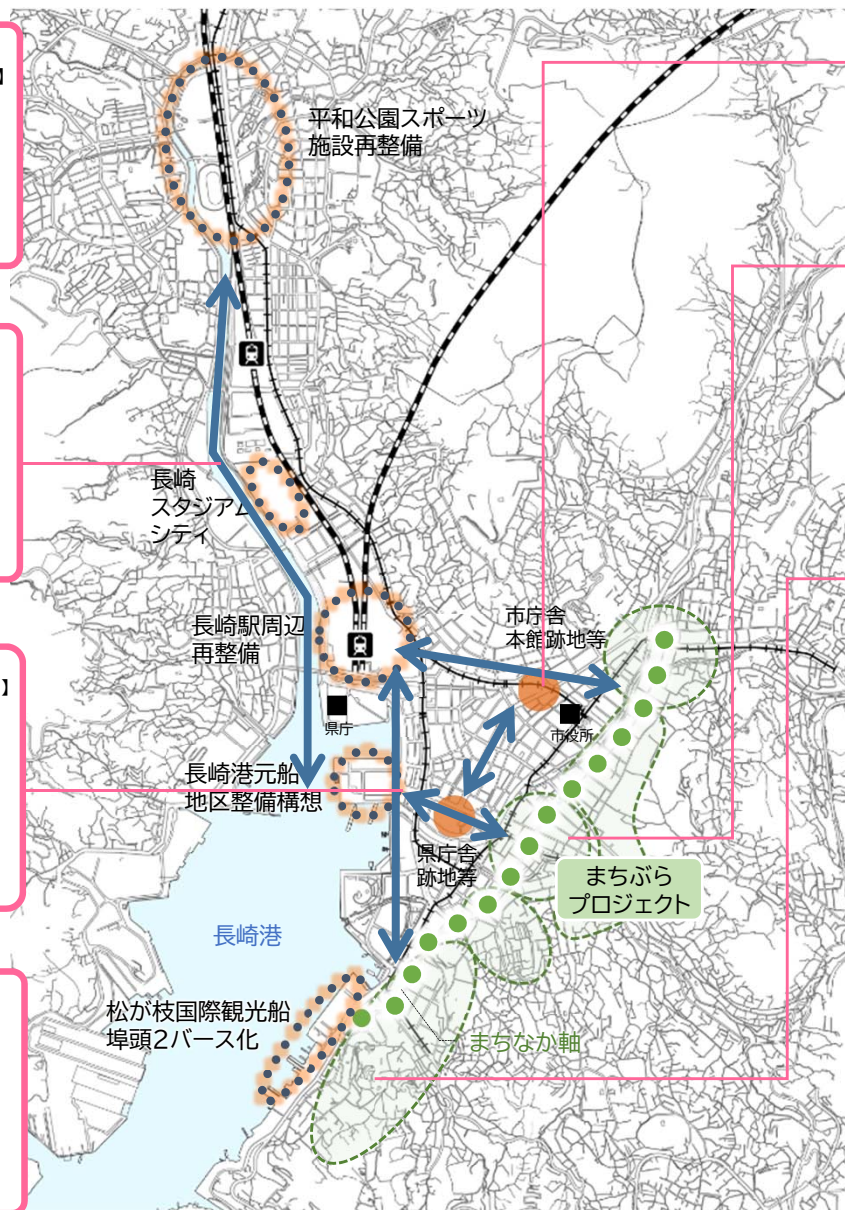
方針Ⅰ－①～③

様々な場所に 居場所や交流・ 活動の場を確保

【都市公園を柔軟に活用】



出典：横浜市「公募型行為許可制度」



※このイメージは取組みの一例として記載しています。また、事業の実施を決定するものではありません。

方針Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ

新たな文化施設及びその周辺における 面的整備による賑わい創出

方針Ⅲ

エリア価値創造の 取組みによる 目的地づくり

【リノベーションまちづくり】



出典：北九州市「RENOVATION」

方針Ⅰ－②

洋館や町家を活用し た賑わいの創出

【伝統的町家を活かした賑わい創出】



出典：内閣府「稼げるまちづくり取組事例集」

方針Ⅲ－①

産学官エリアプラット フォームの設立



出典：国土交通省
「まちづくりの可能性を広げるエリアプラットフォーム」

共通

スマートシティの 実現



出典：国土交通省
「まちづくりのデジタル・トランスフォーメーション実現ビジョン」

B 地域拠点・生活地区

豊かな自然などの魅力を感じ、地域ならではの暮らし方や過ごし方ができるエリアづくり

【ポテンシャル】

【現状・問題点】

自然、世界遺産

生活サービスの
質が低下自然環境に恵まれたゆとりある
暮らしや過ごし方のニーズがある豊かな自然や食、世界遺産構成資産など、地域ならではの魅力が
あるが活用できていないという意見がある

方針Ⅰ 暮らしやすさを確保しよう

地域
拠点

①都市機能の維持・向上

地域の生活を支える拠点として、商業や医療などの
都市機能の維持・向上。

— 取組みイメージ —

【都市機能の誘導】



出典：長崎市「長崎市都市計画マスタープラン」

地域
拠点

②交通の要所としての整備

生活地区と都心部・近隣都市をつなげる交通の要
所として整備。

— 取組みイメージ —

【乗継拠点と都市機能の一体化】



出典：国土交通省「国土交通省白書2021」

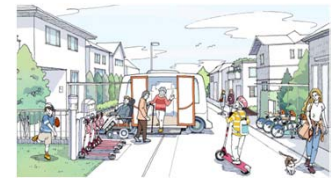
地域
拠点生活
地区

③地区内の移動支援

車がなくても移動できる手段の確保や体制の構築。

— 取組みイメージ —

【車がなくても便利に安心して移動できるモビリティサービス】



出典：国土交通省「2040年、道路の景色が変わる」

— 各主体の役割や取組みのポイント —

※ 方針や取組みの方向性に関する各主体の役割や取組みのポイントなどを、次回検討委員会までに記載予定です。

生活
地区

④住民が集まりやすい場所の多機能な活用

公共交通の乗継拠点など、住民が集まりやすい場所を
多機能に活用。

— 取組みイメージ —

— 各主体の役割や取組みのポイント —

【バス停に買い物・交流施設を併設】



出典：国土交通省「地域交通共創モデル実証プロジェクト」

※ 方針や取組みの方向性に関する各主体の役割や取組みの
ポイントなどを、次回検討委員会までに記載予定です。地域
拠点生活
地区

⑤ニーズを反映した憩い・遊び場の確保

小規模公園等を、住民ニーズを踏まえながら再編・改
善するなど、満足度が高い憩いや遊び場の確保。

— 取組みイメージ —

— 各主体の役割や取組みのポイント —

【ニーズを取り入れ公園をリニューアル】 【旧小学校を遊具エリアに整備】



出典：長崎市「横尾地区公園リニューアル」



出典：新上五島町「こども未来交流センター」

※ 方針や取組みの方向性に関する各主体の役割や取組みの
ポイントなどを、次回検討委員会までに記載予定です。

方針Ⅱ 魅力ある暮らし方・過ごし方を提供しよう

生活
地区

①地域ならではのライフスタイルを実現できる環境づくり

豊かな自然を感じる暮らしなど、地域ならではのライフスタイルを実現できる環境づくり。

— 取組イメージ —

【二地域居住の促進】



出典：国土交通省「二地域居住等施策推進ブック」

— 各主体の役割や取組みのポイント —

地域
拠点

生活
地区

②職住育が近接したまちへ転換

自宅近くで日常生活をおくることができるよう職住育近接型のまちへ転換。

— 取組イメージ —

【空き家をコワーキングスペースや子育て拠点に活用】



出典：内閣府「地域住宅団地再生事業の活用イメージ」

地域
拠点

生活
地区

③地域再生の担い手の確保

自治体等と連携し、より住民に近い立場から地域再生に取り組む担い手の確保。

— 取組イメージ —

【まちづくり担い手育成支援事業】



出典：各務原市「まちづくり担い手育成支援事業」

※ 方針や取組みの方向性に関する各主体の役割や取組みのポイントなどを、次回検討委員会までに記載予定です。

方針Ⅲ 豊かな自然など地域の魅力を活用しよう

地域
拠点

生活
地区

①地域の魅力に触れられる場の確保

空き家などを活用した観光客を呼び込む滞在体験施設など、地域の魅力に触れられる場の確保。

— 取組イメージ —

【空き家を活用し滞在体験施設を整備】



出典：尾道市「空き家等活用促進モデル事業」

— 各主体の役割や取組みのポイント —

※ 方針や取組みの方向性に関する各主体の役割や取組みのポイントなどを、次回検討委員会までに記載予定です。

地域
拠点

生活
地区

②地域資源を活用した取組みの推進

公共施設などの余剰空間を活用したチャレンジショップなど、地域資源を活用した取組みの支援。

— 取組イメージ —

【公共空間にチャレンジショップを設置】



出典：須賀川市「創業（チャレンジ）応援事業」

— 各主体の役割や取組みのポイント —

※ 方針や取組みの方向性に関する各主体の役割や取組みのポイントなどを、次回検討委員会までに記載予定です。

Ch.1

長崎まちづくりの
2050年について
グランドデザイン

Ch.2

みらいの長崎について

Ch.3

みらいの長崎に向けたまちづくり

Ch.4

おわりに

取組み展開イメージ

中央地域

※このイメージは取組みの一例として記載してます。また、事業の実施を決定するものではありません。

方針Ⅲ-②

【マリソピングテント宿泊プラン】

海を活用したアクティビティの創出



出典：国土交通省「海岸の利活用に関する取組事例」

方針Ⅲ-①

【空き家を活用した滞在体験施設】

空き家の活用による関係人口の確保（ワーケーション、滞在体験施設など）



出典：尾道市「尾道市空家等活用促進モデル事業」

方針Ⅲ-②

【軽トラマルシェ】

公共空間を活用した地域資源（食・文化等）に触れられる機会創出

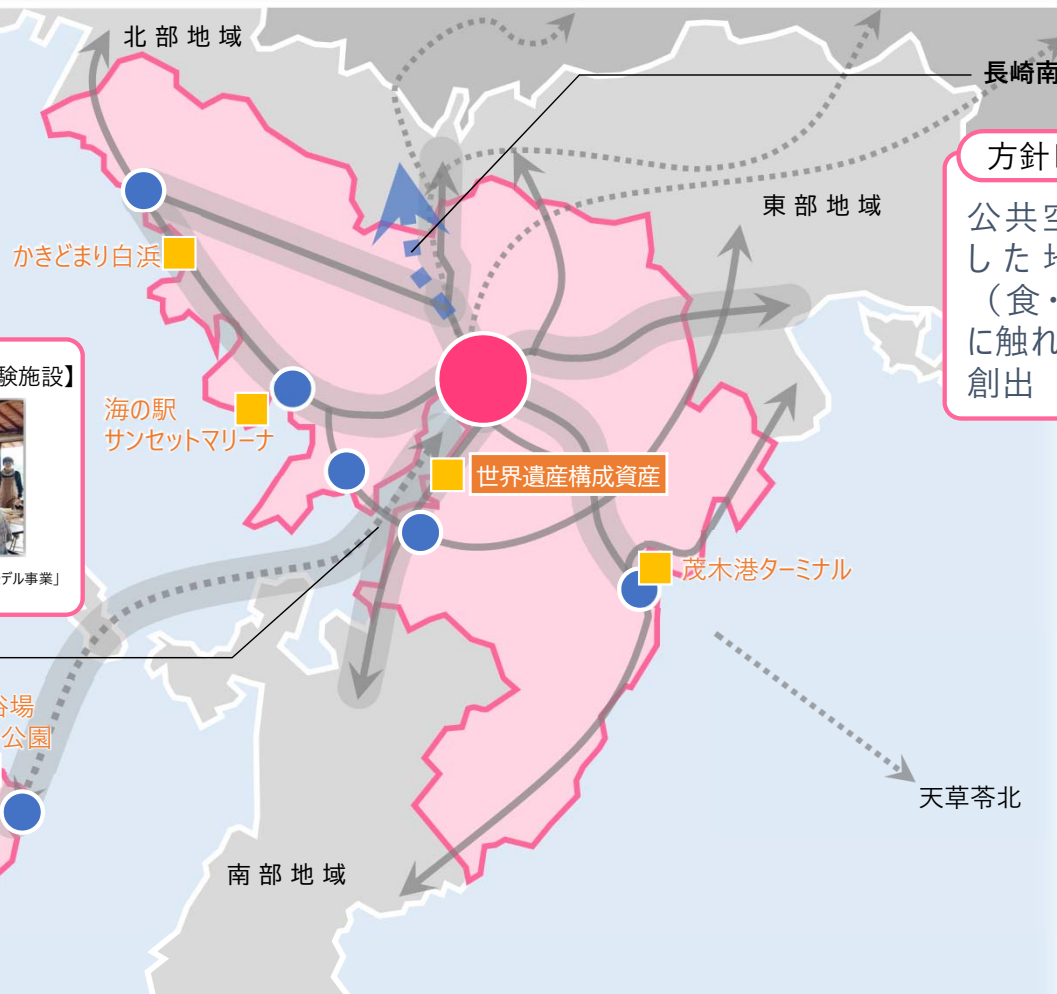


出典：愛知県みよし市ホームページ

長崎港バイエリアカーボンニュートラルポートの推進

高島海水浴場
飛島磯釣り公園

世界遺産構成資産



凡例

- 都心部
- 地域拠点
- 生活地区
- ↔ 幹線道路
- 公共交通連携軸
- ⋯ 鉄道・航路
- ★ 遊休資産※1
- 観光・交流資源など

※1 長崎市公共施設マネジメント地区別計画で遊休資産に位置づけられている施設を記載。

各地域で共通する主な取組みイメージ

スーパーやタクシー事業者と協働し、AIオンデマンド交通を導入



出典：国土交通省「地域交通共創モデル実証プロジェクト」

バス停に、買い物や交流の場を併設



出典：国土交通省「地域交通共創モデル実証プロジェクト」

公共交通で商品や荷物も輸送



出典：国土交通省「地域交通共創モデル実証プロジェクト」

地域ならではのライフスタイルを実現できる環境づくり



出典：国土交通省「二地域居住等施策推進ブック」

多様なニーズに対応した公園に再編



出典：長崎市「横尾地区公園リニューアル」

公共交通連携軸沿線に居住や都市機能を誘導

シェアオフィス、保育所、老人ホームなどの立地を図るため、建築物の規制を緩和

取組み展開イメージ

北部地域

※このイメージは取組みの一例として記載しています。また、事業の実施を決定するものではありません。

洋上風力発電事業（西海市江島沖）

西彼杵道路・長崎南北幹線道路の整備

方針Ⅲ－②

【多面的に地域資源の活用を図る事例】

地域資源等を活用した新たな産業の創出



出典：関東農政局「令和2年度6次産業化アワードの受賞者が決定しました」

方針Ⅰ－③

【生活観光バス路線の構築】

公共交通を生活と観光の足として活用



出典：兵庫県淡路市

方針Ⅰ－②

【乗継拠点に生活サービス施設を集約】

地域拠点と連携した「ハブ＆スポーク型」ネットワークを構築



出典：国土交通省「国土交通省白書2021」

方針Ⅲ－①

【空き家を活用した滞在体験施設】

公共施設や空き家の活用による関係人口の確保（ワーケーション、滞在体験施設など）



出典：尾道市「尾道市空き家等活用促進モデル事業」

広域連携 方針Ⅱ

ＩＣ付近における工業・物流団地の造成



出典：安八町「安ハスマートインターチェンジ工業団地」

凡例

- 都心部
- 地域拠点
- 生活地区
- 西彼杵道路インターチェンジ提言位置
- ↔ 幹線道路
- 公共交通連携軸
- ↔ 鉄道・航路
- ★ 遊休資産※1
- 観光・交流資源など

※1 長崎市公共施設マネジメント地区別計画で遊休資産に位置づけられている施設を記載。

各地域で共通する主な取組みイメージ

スーパーやタクシー事業者と協働し、AIオンデマンド交通を導入



出典：国土交通省「地域交通共創モデル実証プロジェクト」

バス停に、買い物や交流の場を併設



出典：国土交通省「地域交通共創モデル実証プロジェクト」

公共交通で商品や荷物も輸送



出典：国土交通省「地域交通共創モデル実証プロジェクト」

地域ならではのライフスタイルを実現できる環境づくり



出典：国土交通省「二地域居住等施策推進ブック」

多様なニーズに対応した公園に再編



出典：長崎市「横尾地区公園リニューアル」

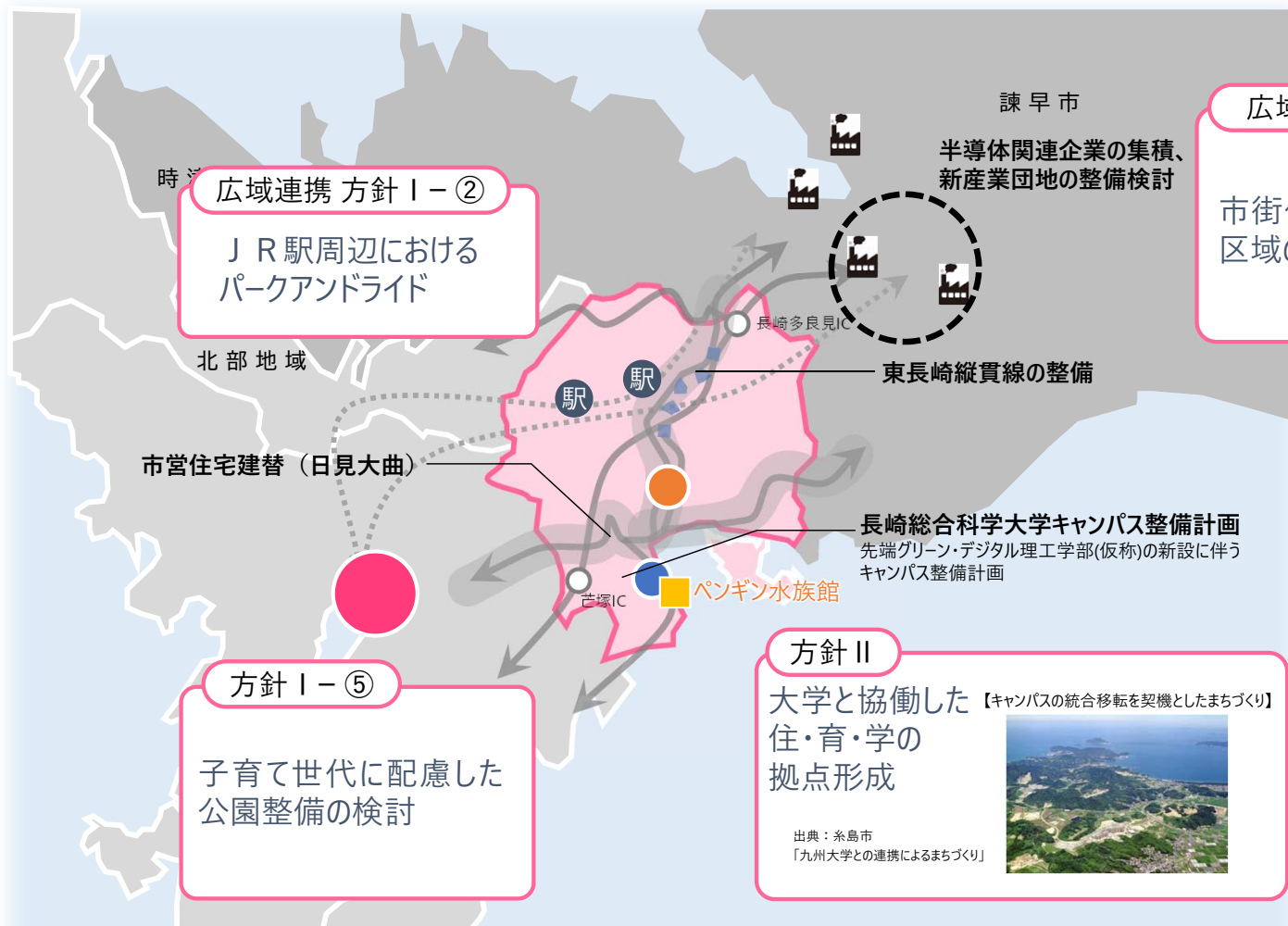
公共交通連携軸沿線に居住や都市機能を誘導

シェアオフィス、保育所、老人ホームなどの立地を図るため、建築物の規制を緩和

取組み展開イメージ

東部地域

※このイメージは取組みの一例として記載しています。また、事業の実施を決定するものではありません。



凡例

- 都心部
- 地域拠点
- 生活地区
- 幹線道路
- 公共交通連携軸
- 鉄道・航路
- 遊休資産※1
- 観光・交流資源など

※1 長崎市公共施設マネジメント地区別計画で遊休資産に位置づけられている施設を記載。

各地域で共通する主な取組みイメージ

スーパーやタクシー
事業者と協働し、
AIオンデマンド交通
を導入



出典：国土交通省「地域交通共創モデル実証プロジェクト」

バス停に、買い物や交流の場を併設



出典：国土交通省「地域交通共創モデル実証プロジェクト」

公共交通で商品や荷物も輸送



出典：国土交通省「地域交通共創モデル実証プロジェクト」

地域ならではのライフスタイルを実現できる環境づくり



出典：国土交通省「二地域居住等施策推進ブック」

多様なニーズに対応した公園に再編



出典：長崎市「横尾地区公園リニューアル」

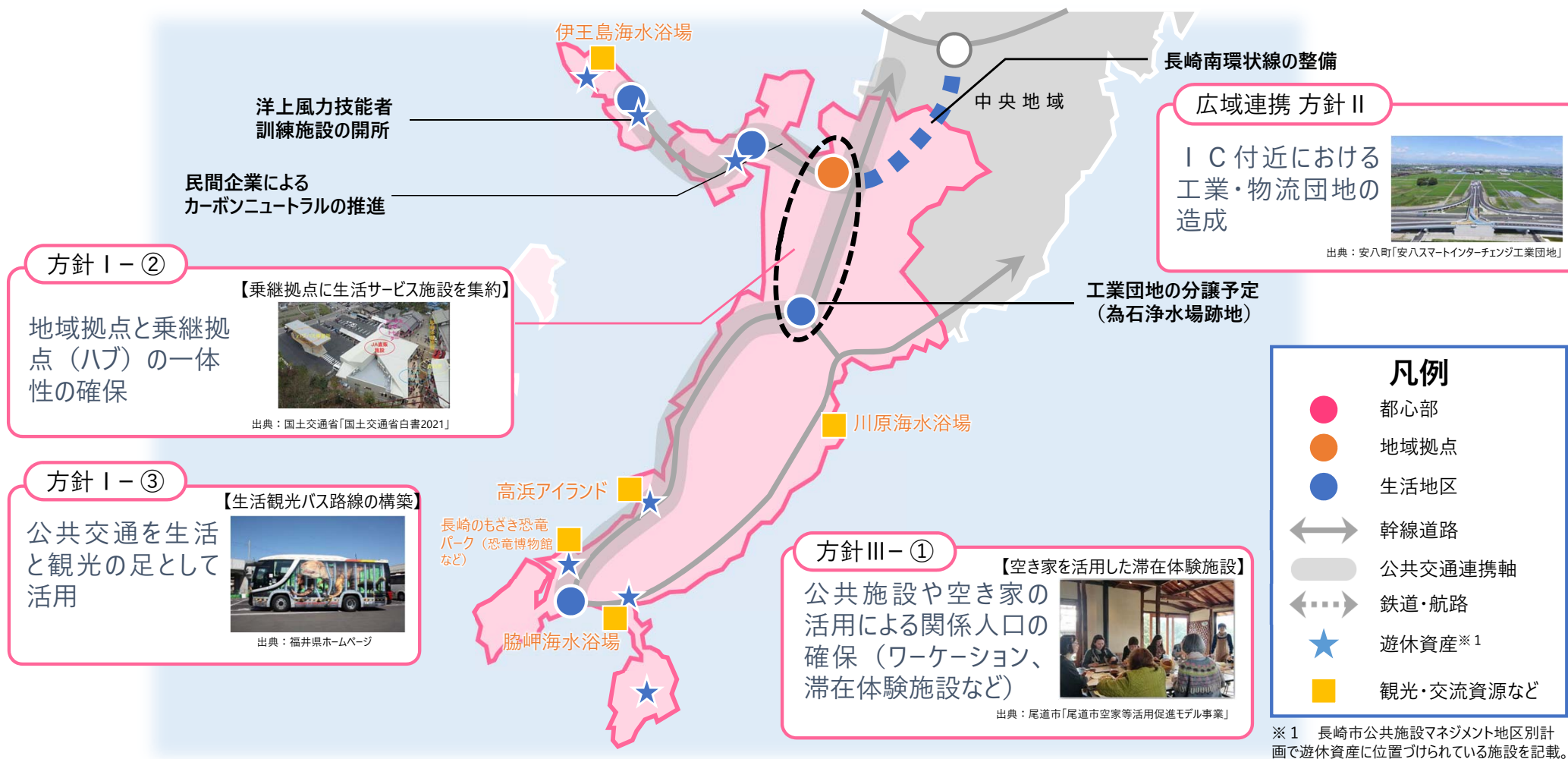
公共交通連携軸沿線に居住や都市機能を誘導

シェアオフィス、保育所、老人ホームなどの立地を図るため、建築物の規制を緩和

取組み展開イメージ

南部地域

※このイメージは取組みの一例として記載しています。また、事業の実施を決定するものではありません。



各地域で共通する主な取組みイメージ

スーパーやタクシー事業者と協働し、AIオンデマンド交通を導入

出典：国土交通省「地域交通共創モデル実証プロジェクト」



バス停に、買い物や交流の場を併設



出典：国土交通省「地域交通共創モデル実証プロジェクト」

公共交通で商品や荷物も輸送



出典：国土交通省「地域交通共創モデル実証プロジェクト」

地域ならではのライフスタイルを実現できる環境づくり



出典：国土交通省「三地域居住等施策推進プロジェクト」

多様なニーズに対応した公園に再編



出典：長崎市「横尾地区公園リニューアル」

公共交通連携軸沿線に居住や都市機能を誘導

シェアオフィス、保育所、老人ホームなどの立地を図るため、建築物の規制を緩和

C 斜面市街地

眺望の良さや静かな環境などの魅力を感じ、斜面地ならではの暮らし方や過ごし方ができるエリアづくり

【ポテンシャル】

眺望、静謐さ、
低廉な地価

【現状・問題点】

車が通らない道が多いなど、都市
基盤の整備が進んでいない空き地・空き家が増加し、都市
空間にゆとりが生じつつある長崎の街並みを一望できる「坂」の魅力を活かした取り組みや、
斜面地の眺望を観光資源として活用できるという意見がある

方針Ⅰ 斜面地に合った暮らしやすさを確保しよう

①既存ストックを活かした交通環境の改善

既存の道路インフラを有効活用し車が通る道路を整備するなど、交通環境の改善。

— 取組イメージ —

【階段道のスロープ化】



出典：長崎市「車みち整備事業とは」



②移動の支援

狭い道でも走行できるモビリティ等を活用した移動支援の導入の推進。

— 取組イメージ —

【様々なモビリティを活用した移動支援】

出典：国土交通省
「グリーンスローモビリティの導入と活用のための手引き」

③未利用ストックの多機能な活用

空き地などの未利用ストックを多機能に活用。

— 取組イメージ —

【土地を多機能に活用する事例】

出典：さいたま市
「シェア型マルチモビリティの取組と交通政策」

— 各主体の役割や取組みのポイント —

※ 方針や取組みの方向性に関する各主体の役割や取組みのポイントなどを、次回検討委員会までに記載予定です。

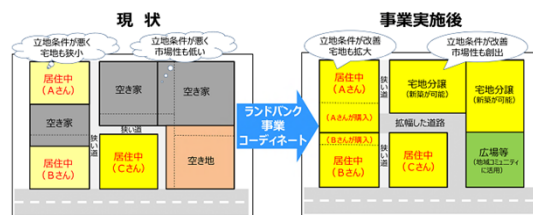
方針Ⅱ 安全で暮らしやすい場所での暮らしを推進しよう

未利用ストックなどを活用した環境づくり

複数の空き地・空き家等を区画再編するなどし、市場価値のある住宅ストックなどを確保。

— 取組イメージ —

【未利用ストック等を活用した小規模区画再編】



出典：広島県「広島型ランドバンク事業」

— 各主体の役割や取組みのポイント —

※ 方針や取組みの方向性に関する各主体の役割や取組みのポイントなどを、次回検討委員会までに記載予定です。

方針Ⅲ 斜面地ならではの魅力を活用しよう

斜面地の魅力を活用した取組みの支援

建物用途規制の緩和などにより、斜面地の魅力を活用する取組みの支援。

— 取組イメージ —

【遊休地を農園として活用しコミュニティ再生へ】



出典：国土交通省「空き地等の新たな活用」

— 各主体の役割や取組みのポイント —

※ 方針や取組みの方向性に関する各主体の役割や取組みのポイントなどを、次回検討委員会までに記載予定です。

取組み展開イメージ

※このイメージは取組みの一例として記載してます。また、事業の実施を決定するものではありません。

共通

住まいを安全で暮らしやすい場所に緩やかに誘導

方針Ⅲ

ゆとりある住まい方を実現する土地の利用



出典：国土交通省「空き地等の新たな活用」

方針Ⅲ

空き地を広場や農園など、交流の場として活用



出典：国土交通省「空き地等の新たな活用」

方針Ⅲ

店舗や宿泊施設が立地できるよう建物用途規制を緩和

出典：長崎市HP「長崎坂宿」

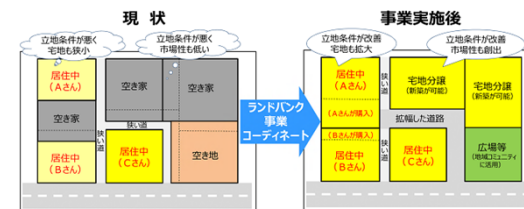
【空き家をホテルにリノベーション】



方針Ⅱ

空き家・空き地などの再編による住宅用地の創出

【未利用ストック等を活用した小規模区画再編】



出典：広島県「広島型ランドバンク事業」

方針Ⅰ－①

【階段道のスロープ化】

今ある道路を活かしながら、多少狭くても車が通る道路をつくる



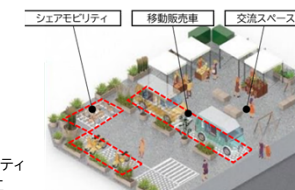
出典：長崎市「車みち整備事業とは」

方針Ⅰ－③

空き地などの未利用ストックを多機能に活用

出典：さいたま市「シェア型マルチモビリティの取組と交通政策」を長崎市が一部加工

【土地を多機能に活用する事例】



Ch.1

長崎まちづくりのグランドデザイン
2050について

Ch.2

みらいの長崎について

Ch.3

みらいの長崎に向けたまちづくり

Ch.4

おわりに

D 都心部と周辺部のつながり だれもが円滑に移動でき、どこに住んでも十分な生活サービスを受けられるネットワークづくり

【現状・問題点】

幹線道路に限られた平坦地に集積し、慢性的な交通渋滞が発生

公共交通機関の減便や路線廃止が続いており、市民からは交通利便性の悪化を問題視する声が上がっている

方針Ⅰ 円滑な移動を支える道路・交通ネットワークを形成しよう

① 円滑な道路交通の確保

幹線道路網の充実や交通需要マネジメントなどにより、円滑な道路交通の確保。

ー 取組みイメージ ー

【幹線道路の整備】



出典：長崎県長崎振興局「長崎南環状線」

ー 各主体の役割や取組みのポイント ー

※ 方針や取組みの方向性に関係する各主体の役割や取組みのポイントなどを、次回検討委員会までに記載予定です。

② 公共交通のスムーズな移動を支える環境づくり

バス専用レーンの拡充などにより、公共交通のスムーズな移動の支援。

ー 取組みイメージ ー

【速達性・定時性を確保したバスの運行】



出典：岐阜市「岐阜市総合交通計画」

ー 各主体の役割や取組みのポイント ー

※ 方針や取組みの方向性に関係する各主体の役割や取組みのポイントなどを、次回検討委員会までに記載予定です。

方針Ⅱ だれもが快適に移動できる手段を確保しよう

① 公共交通の持続可能性の向上

既存路線の効率化や見直し等を進め、将来にわたって持続可能な公共交通の実現。

ー 取組みイメージ ー

ー 各主体の役割や取組みのポイント ー

【公共交通を軸としたまちづくり】



出典：国土交通省「国土交通白書2024」

※ 方針や取組みの方向性に関係する各主体の役割や取組みのポイントなどを、次回検討委員会までに記載予定です。

② 公共交通のDXの推進

MaaSや自動運転の導入など、公共交通DXの推進。

ー 取組みイメージ ー

ー 各主体の役割や取組みのポイント ー

【自動運転バスの運行】



出典：国土交通省「2040年、道路の景色が変わる」

※ 方針や取組みの方向性に関係する各主体の役割や取組みのポイントなどを、次回検討委員会までに記載予定です。

③ 様々な移動手段の円滑な接続

様々な移動手段の乗継環境を向上し、スムーズな乗り換えの実現。

ー 取組みイメージ ー

ー 各主体の役割や取組みのポイント ー

【様々な交通モードの接続・乗り換え拠点】



出典：国土交通省「2040年、道路の景色が変わる」

※ 方針や取組みの方向性に関係する各主体の役割や取組みのポイントなどを、次回検討委員会までに記載予定です。

【現状】

九州新幹線西九州ルート（リレー方式）の開業や広域幹線道路網の整備、松が枝国際観光船埠頭2バース化といった広域ネットワークの形成が進んでいる

諫早・大村市では、半導体関連企業の集積が進んでおり、市民からは近隣都市の住宅・産業動向と連携した取組をを求める声がある

方針Ⅰ 広域ネットワークを形成し、活用しよう

① 広域ネットワークの形成

九州新幹線西九州ルートの全線フル規格や高規格道路の整備といった広域ネットワークの形成の推進。

－ 取組イメージ －



出典：長崎県HP「西九州新幹線開業！」

－ 各主体の役割や取組のポイント －

※ 方針や取組の方向性に関係する各主体の役割や取組のポイントなどを、次回検討委員会までに記載予定です。

② 県内外との連携強化

二次交通の充実などにより、県内外との連携の強化。

－ 取組イメージ －



出典：長崎県HP「長崎市中心部の交通結節機能強化の基本計画」

－ 各主体の役割や取組のポイント －

※ 方針や取組の方向性に関係する各主体の役割や取組のポイントなどを、次回検討委員会までに記載予定です。

方針Ⅱ 産業機能を増進しよう

企業立地用地の確保

広域幹線道路網の整備との連携や近隣都市の産業動向などを踏まえながら、土地利用の規制を緩和するなど、企業立地用地の受け皿の確保。

－ 取組イメージ －

【民間を活用した産業団地開発】



出典：経済産業省「産業立地政策について」

－ 各主体の役割や取組のポイント －

※ 方針や取組の方向性に関係する各主体の役割や取組のポイントなどを、次回検討委員会までに記載予定です。

方針Ⅲ 居住機能を増進しよう

住宅立地用地の確保

広域ネットワークの形成との連携や近隣都市の産業動向などを踏まえながら、土地利用の規制を緩和するなど、住宅立地用地の受け皿の確保。

－ 取組イメージ －

【住宅団地の造成】



－ 各主体の役割や取組のポイント －

※ 方針や取組の方向性に関係する各主体の役割や取組のポイントなどを、次回検討委員会までに記載予定です。

テーマ共通

多様な主体の連携・協働やまちづくりの担い手を育成する体制の構築

産学官金労言士といった地域を構成する多様な主体が連携・協働する体制や、まちづくりの担い手を育成する体制の構築。



出典：国土交通省「まちづくりの可能性を広げるエリアプラットフォーム」

最新技術の活用とまちづくりDXの推進

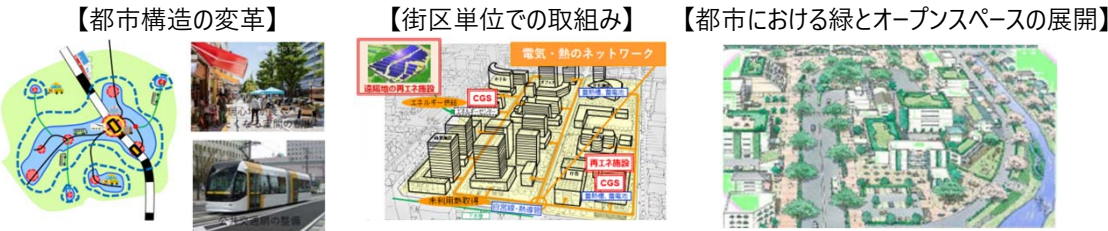
ICTをはじめとする最新技術の活用や、デジタル技術を駆使した地域課題の解決と新たな価値創出を目指すまちづくりDX（デジタルトランスフォーメーション）の推進。



出典：国土交通省「まちづくりのデジタル・トランスフォーメーション実現ビジョン」

まちづくりGXの推進

カーボンニュートラルの実現に向けて、脱炭素に資するまちづくりの推進。



出典：国土交通省「都市行政におけるカーボンニュートラルに向けた取組事例集」

コンパクトで安全なまちづくりの推進

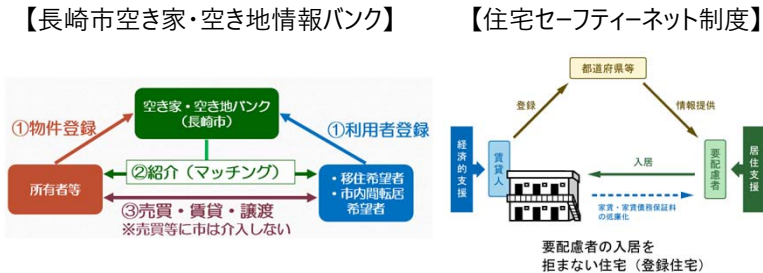
災害の危険性が高い場所などから、安心して暮らしやすい場所への住み替えを促すとともに、災害に強い住環境を確保することでコンパクトで安全なまちづくりの推進。



出典：長崎市「立地適正化計画」

だれもが住まいを探しやすい仕組みを構築

住まい探しでお困りの方も含め、だれもが住まい探しやすい仕組みの構築。

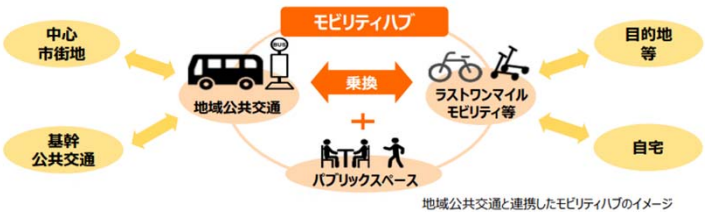


出典：長崎市

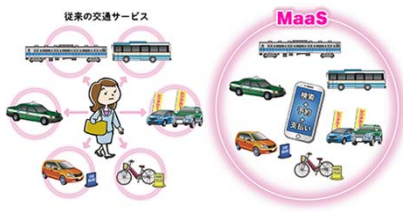
出典：（一社）すまいづくりまちづくりセンター連合会

様々な移動手段をシームレスにつなぐ

公共交通機関同士はもちろん、様々な移動手段の乗り継ぎ拠点整備やデジタル技術を活用し、スムーズな乗り換えの実現。



出典：国土交通省「第2回施設デザインWG事務局資料」



出典：内閣府「政府広報オンライン」

Chapter 4

おわりに

C h . 1

長崎まちづくりのグランドデザイン
2050について

C h . 2

みらいの長崎について

C h . 3

みらいの長崎に向けたまちづくり

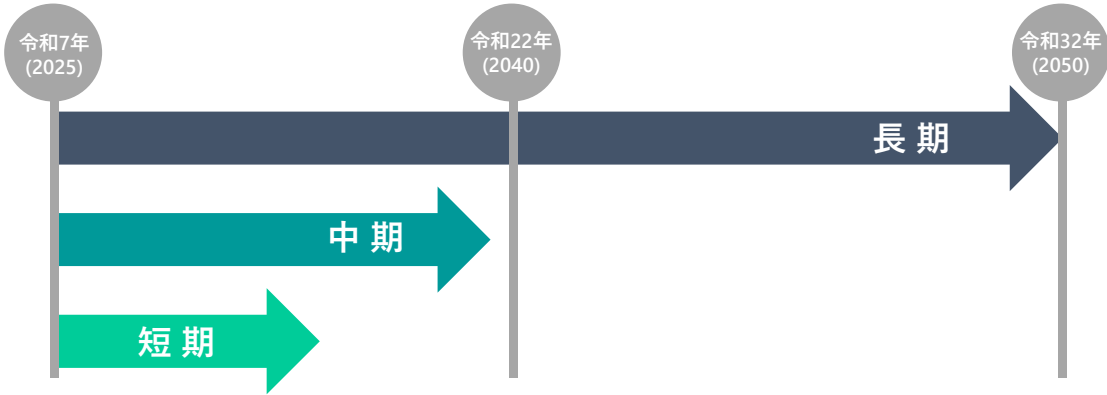
C h . 4

おわりに

1 これからの展開

スピード感のあるまちづくりの推進

人口減少対策は喫緊の課題であることから、スピード感を持って短期的な施策と中長期的な取組みを着実に推進します。なお、各テーマのエリア・ネットワークづくりの考え方と方針については、およそ中間年の2040年を目途とし、取組みの方向性については社会情勢の変化等を踏まえて適宜見直しを行います。



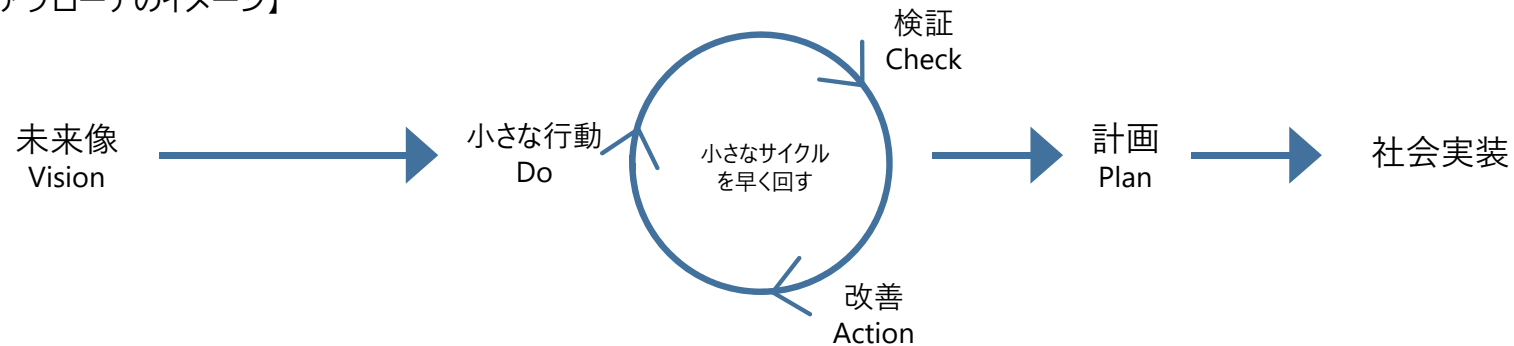
連携・協働・共創によるまちづくり

エリアに関わる多様な主体が緊密に連携・協働してまちづくりを進めながら、多様化・複雑化する課題に熱意をもって取組む全国の関係・交流人口の皆様とともに共創し、オール長崎でまちづくりの取組みを推進していきます。

実践的なアプローチ

多様な主体を巻き込み社会情勢の急速な変化に対応しながら課題解決を図るためには、ビジョンを持ちつつ、社会実験を含めた小さな行動を積み上げて検証・改善し、計画から本格実行につなげるアプローチの重要性が増しています。まずは短期的にこうしたアプローチを繰り返し、中長期的な行動へとつなげていきます。

【実践的アプローチのイメージ】



「みらいの長崎」に向けたファーストステップ

港町として国内外に開かれ発展してきた長崎のまちは、国際色豊かな多様な都市文化を持つとともに、平和都市としての国際的な役割を持っています。

これまでも国内外から訪れる人々との交流と協働によって新しい時代の価値を生み出し、発信し続けてきました。

そしてこれからは、多様な関係者とともにまちづくりを進めることはもちろん、民間の自由な発想提案によるまちへの投資を呼び込むことも不可欠です。

長崎市がチャレンジの舞台として選ばれ、立場を超えたあらゆる人々の交流と協働、さらには共創によって本グランドデザインに描いた長崎が実現するために、まず以下のことについて取組んでいきます。

● 都市空間の活用を通じた「創造都市」の推進による交流拡大

長崎の都市空間がこれからも交流の舞台となるためにコトの魅力（体験的価値）が求められています。特にスポーツや文化芸術、アウトドアなどには、今後大きな可能性があります。

長崎市が持つ様々な資源を文化芸術や産業経済が持つ創造性によって最大限に生かす「創造都市」の取組みを推進し、都市空間の活用を通じた交流拡大、産業振興を進めていきます。

【ジャズを通じた長崎のまちのブランディング】



出典：長崎市「長崎創生プロジェクト事業」

【伝統工芸を活かすまちづくり】



出典：金沢市「ユネスコ創造都市金沢モニタリングレポート」

● 心地良く過ごせる場所づくりや都市空間活用を促進する体制・仕組みづくり

まちに心地良く過ごせる場所があることが、まちに人をひきつけ、滞在させます。

都市空間を使いこなして「空間（＝space）」を「居場所（＝place）」に変えていくためには、このエリアに関わる多様な主体との連携・協働が必要です。

そうした都市空間活用を実現するために、連携・協働のハブとなる体制づくりや仕組みづくりに連携して取組んでいきます。

【スポーツによる賑わい創出】



【公民学など様々な主体が連携した事業推進】



出典：国土交通省「官民連携まちづくりポータルサイト」

● 地域の暮らしを支える「小さな拠点」づくり

将来にわたって市民の皆さんが地域で安心して暮らせる環境づくりが、持続的な地域の実現に向けて重要です。

既存施設の有効活用などによる生活サービスの集約や地区内のアクセス性の確保、地域資源を活用した仕事・収入の確保を目指す「小さな拠点」づくりを、各主体と役割分担しながら推進していきます。

【「小さな拠点」づくりの取組みイメージ】



出典：内閣府「小さな拠点・地域運営組織に関する手引き・事例集」、農林水産省「6次産業化の取組事例集」

Ch.1	長崎まちづくりのランドデザイン 2050について
Ch.2	みらいの長崎について
Ch.3	みらいの長崎に向けたまちづくり
Ch.4	おわりに

2

みなさまへのメッセージ

※次回検討委員会で掲載予定

メッセージ

問い合わせ先

裏表紙